拠点病院内に相談窓口

がん何でもQ&A

精密検査で肺がんと診断

質問

58歳の男性です。今まで病気などしたことがなかったのですが、検診でがんの疑いがあると言われ、精密検査を受けた結果、肺がんと診断されました。頭が真っ白になり、どうやって家に帰ったのか思い出せないくらいショックでした。病院で説明を受けましたが、さまざまなことが頭の中をよぎり、何をどうしたらよいのかわかりません。どこか相談できるところはありますか。

答え

精密検査を受けながら覚悟はしていたとしても、がんであるとの診断は、とてもショックなことだったでしょう。そのようなときは誰もが「何かの間違いではないか」「どうして私が」と考えます。また、「がんはどのくらい進んでいるのか」「治療費はどのくらいかかるのか」「仕事は続けられるのか」「家族に負担や心配をかけたくない」など、悩みは尽きず、気持ちが落ち込んでしまうのは無理もありません。

しかし、あまり思い詰めてしまっては、心にも体にもよくありません。家族や親しい人、医師、看護師などの力も借りながら、がんと向き合い、「信頼できる情報を集めること」と「自分なりの病気に対する態度を決めること」が必要です。

がんと診断されてから治療が始まるまでの段階を《表上》にまとめてみました。段階ごとに、重要な情報や大切にしたいことが変わってきます。納得できる治療法を選び、自分らしい療養生活を送るためには、自分の体や気持ちの状態を知り、また、自分が大事にしたいことを整理して伝えていくことが大切です。

一人ですべてに対処していくのは大変なことです。また、説明を受けても情報自体が難しすぎて、理解できないこともあります。このようなとき、話を聞いてくれる相談相手がいると、あなた自身の力で一歩を踏み出せることもあります。

徳島県内では、徳島がん対策センターと、がん診療連携拠点病院（徳島大学病院、徳島県立中央病院、徳島市民病院、徳島赤十字病院）で、がんに関する悩みや心配ごと、医療費はいくらかかるかなどの疑問や相談にお答えしています。がんの診断や治療についてもっと知りたいとき、不安でたまらないとき、一緒に考え、情報を探すお手伝いをします《表下》。

徳島がん対策センターは、徳島大学病院と県立中央病院によって、「がん医療の提供体制および連携体制の最適化」を目指して設置されました。県内のがん医療における在宅医療の推進や、患者および家族に対する支援を図るものです。①在宅緩和ケア支援事業②がん患者支援事業③情報発信事業の3事業を中心としており、ホームページには県内のがんに関する情報を集約しています。

センター、各病院ともに相談は無料ですが、病院によっては受付時間が異なり、予約が必要な場合もありますので、ご確認ください。個人的なご相談内容が本人の了解なしに、担当医や他の方に伝わることはありません。

がんと診断されてから治療が始まるまで

- がんの診断
- 心の支えを見つける
  - 家族や親しい人に伝え、力になってもらう
  - 自分の気持ちと上手に付き合う
- 病状を理解する
  - 病気はどのように説明されたか
  - その説明は十分に理解できたか
- 担当医に伝える
  - 持病や服用している薬を書き出す
- 自分に合った治療法は？
  - どのような治療法を勧められたか
  - 治療において大事にしたいことは何か
  - 必要に応じてセカンドオピニオンを求める
- 治療法を決める
  - 選んだ治療法と、その流れを整理する
- 周囲の人の協力や社会的支援を活用する
  - 治療前に周囲の人に伝えておくことを書き出す
  - 治療にかかる費用の目安を知っておく
  - 保険や各種制度の手続きをする
- 治療開始

●徳島がん対策センター　088(633)9438
ホームページhttp://www.toku-gantaisaku.jp/
●徳島大学病院
地域医療連携センター　088(633)9107
●徳島県立中央病院
やまもも相談室　088(631)7151（内線371・383）
●徳島市民病院
医療相談支援センター　088(621)5121（代表）
●徳島赤十字病院
医療相談支援センター　0885(32)2555（内線3167）

質問募集　がんに関する悩みに「徳島がん対策センター」がお答えします。質問内容を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、〒770-8572　徳島新聞社文化部「がん相談」係へ。紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。

徳島大学病院地域医療連携センター副センター長
久米　博子